

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	常時、利用者各々のニーズと地域の中で暮らすことを意識しながら、理念に沿い、取り組んでいる。	○	地域密着型サービスをして、具体的な理念を示していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	運営理念を事務所に掲示し、日常生活の支援に対して、共通の目的を持って、全職員で実行している。	○	運営理念を全員が理解し、業務内容が理念に一致しているか確認していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族、地域の連携、連絡をできる限り多く持ち、理念を理解していただけるよう説明している。	○	地域に出向き、説明を多く持ちたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域との連携なくしては考えられないため、常に交流を深める働きかけをしている。散歩時には、声かけし、関係づくりをしている。	○	災害時に備え、隣近所の方も参加していただける訓練を考えていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会等に働きかけ、地域の活動や交流を図っている。	○	地域の夏祭り等の行事に、参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	会議等で話し合いの機会を取っている。認知症やホームの受け入れ相談、対応に応じている。	○	地域での介護教室の開催に、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議や日常業務の中で、話し合う機会を持ち、全職員で質の向上に活かしている。	○	全職員が評価の内容、意義を認識し、熟知するよう努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施している。会議での話し合いの中で、意見を出していただき、実現に向け、取り組んでいる。	○	地域の人達の支援を得るため、地域に根ざしたことを進めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は重要であり、情報提供や収集に努めている。	○	今後も連携に努め、事業所の考え方、実態を知らせたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	会議や研修等で学ぶ機会を持ち、職員に自己啓発を促している。	○	今後、利用者の相談に活用できるよう支援したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、虐待は見られない。	○	質の向上のため、継続的な研修を行い、各々が意識し注意していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者が、文書に沿って、口答で十分な説明をし、確認をとり、同意を得ている。	○	十分な時間を取り、不安や疑問点の説明を行っていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談を文書に残し、苦情に対する対応を、速やかに検討し支援している。	○	運営推進会議の場で意見を聞いたり、日々、利用者の思いを受けとめ、職員全員で改善していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、電話連絡により随時報告し、家族とのコミュニケーションを大切にしている。	○	ホームページで、家族の方々への情報提供を行っていききたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族への声かけを必ず行い、話しやすい雰囲気づくりを図っている。	○	家族からの意見・要望は重要と考え、積極的に働きかけている。家族会等の機会を多くとりたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や会議、日々の業務の中で、職員の意見を出してもらい、役立てている。	○	素直な意見が、出せる雰囲気づくりを心がけていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	業務を進めるうえで、必要な支援を柔軟に提供するため、臨機応変に対応している。	○	その都度、対応していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係づくりを心がけ、ローテーションを考えている。	○	職員の異動・離職時は、特に注意し、支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2か月ごとに社内研修を実施している。外部研修に関しては、職員にフィードバックしている。日常業務の中で助言している。</p>	<p>○</p> <p>職員に日常的に学ぶことを推進し、社内外の研修会の参加により、資質の向上につなげたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修・見学で交流の機会を持ち、同業者との連携に努めている。</p>	<p>○</p> <p>サービスの質の向上を図り、情報交換を図っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務時の態度を見極めたり、他の職員の話聞き、休憩中や勤務時間外に相談できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>その都度、話を聞き、実施していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の勤務状態を把握し、配慮している。</p>	<p>○</p> <p>常時、見極め、向上心を持って働けるよう努めていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人から状況を聴くことにより、見極め、受容している。意志表示のできない方は、家族より聴いている。</p>	<p>○</p> <p>面会の機会を多く持つようしていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族から状況を聴くことにより、何を求めているのか見極め、受容し、信頼関係を築いている。</p>	<p>○</p> <p>信頼関係を築くことは大切なため、話は熱心に聴き、対応していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が、今何が必要なのか、事業所として対応している。	○	他の事業所との連携を図り、対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人、家族等が見学し、職員との面談・相談を行い、納得されたうえで利用されている。	○	本人・家族が安心してサービスが受けられるよう、馴染みの関係を作っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の立場を考え、日常生活の場で、人生の先輩として、言葉かけや対応に注意し、関係を築いている。	○	「一人の人間」として尊重し、職員一人ひとりが、人権やプライバシーの保護を考え、実施していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とよく相談しながら、今の状態の一番よい方法を提示し、共に考えている。	○	家族との連携は、密なものと考えているので、今後も取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や電話連絡により、利用者の状況を説明し、良い関係づくりが築けるよう支援している。	○	随時、家族とこまめに連絡を取っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人の面会には、できるだけ来ていただけるようお願いしている。	○	家族に連絡・報告し、支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が助け合う場面があり、支えあっている。	○	利用者同士の思いある行動が見られるので、今後も支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も状況を聞き、事務所側から支援している。	○	継続的な支援に努めていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の行動や会話・意見に注意し、また、家族に話を聞き、把握している。	○	本人の思いを職員がくみ取り、支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、馴染みの関係をつくり、本人や家族から話を聞き、把握に努めている。	○	利用者の暮らしの把握は、ケアするうえで、必要なことと考え、情報を共有している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの残在機能に応じ、生活していただくよう努めている。	○	職員全員が、利用者の状況を把握するよう徹底していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の立場で考え、家族・利用者自身とも話し合い、意見・要望を聞いたうえで、全職員との話し合いで作成している。	○	常に、全職員の意見を聞き、個々の特性を踏まえ、作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間の終了前、状態変化時には実施している。月に一度は、必ずモニタリングをし、見直している。	○	常時、利用者の変化を見逃さないよう、気づきを大切に、ニーズに応じた見直しに努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・業務日誌に日々の記録を記入し、職員のケアに活かし、介護計画の見直しにも活かしている。	○	職員全員が、利用者の日常の様子を記録できるよう指導していききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望に応じて、臨機応変に対応している。	○	他事業所のサービスも考え、機能し、支援していききたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の人に協力を得ながら、支援している。	○	地域資源の情報を集めるよう、努めていききたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所との連携は取り、情報交換している。	○	個別対応に応じられるよう、支援していききたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域資源として、連携を図っている。	○	地域包括支援センターからの情報は、不可欠なものであるため、今後も連携していききたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に相談・説明し、同意を得、納得したうえで決定している。	○	医療機関との連携・情報の共有ができるよう、常時連絡を深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月2～3回、心療内科医の往診があり、相談に応じてもらっている。	○	医師との信頼関係を築きながら、個別支援に努めていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時、看護職員が勤務し、利用者の健康管理や医療的な支援を行っている。	○	今後も、その都度実施していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院との連携を行い、必要な支援に努めている。	○	情報交換や相談しながら、支援していきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を家族に説明し、支援を行っている。	○	日常の健康管理や急変時に対応できるよう、取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護・介護職員が連携を図りながら、チームで支援する方針を取っている。	○	主治医・家族と連携を取りながら、安心して安全に暮らせるよう取り組んでいきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの情報をプライバシーに配慮しながら伝え、継続的支援に努めている。	○	その都度、話し合いや情報交換を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の人格を尊重し、介護の基本として十分心がけ、対応している。	○ 職員同士が、注意できるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常時、声かけにより、本人の意志に沿っている。言葉で伝えられない利用者は、行動・態度で把握している。	○ 職員が決定するのではなく、本人の意思にまかせ、支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心のゆったりとした生活をしていただけるよう、見守り、支援している。	○ 訴えない利用者各々が、何をしたいのか日々の暮らしの中で職員が把握している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎月1回、ホームに専門の理容師に来ていただいて実施している。希望者は店へ行っている。	○ 意志伝達のできない方は、家族に尋ね、支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な物を食べていただけるよう、献立の工夫をしている。	○ 希望に合った料理を提供し、食べる意欲を引き出すよう、楽しい雰囲気を保ちたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好を把握し、希望に合った献立や味つけを心がけている。	○ 行事の時は好みの物を出し、お酒も少し飲んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、定時・随時で誘導している。	○	日中は、トイレでの排泄を徹底していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中は、いつでも入浴していただけるよう、希望時や失禁時に、個人入浴にてプライバシーに配慮している。	○	身体的変化に応じ、体に負担のないよう、今後、入浴の方法を取り入れた支援を考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜の区別をしていただけるよう、規則的な生活パターンを実行している。	○	利用者一人ひとりのリズムに合わせ、支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが役割を持てるよう、利用者の立場で「何をしたいか」、「何ができるのか」を把握し、支援している。	○	現在、機能により、利用者個別の役割を持っていただいたり、楽しみを持っていただいているので、今後も支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理を行いたい利用者には、管理できる体制を整えている。	○	お金を所持している利用者には、家族と相談し、支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	生活の中での楽しみのひとつとして、朝・夕の散歩を心がけ、季節感を感じていただいている。	○	その日の利用者の状態に応じ、外出の機会を得られる体制を整え、気分転換を図っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と相談しながら、支援し、機会を作っている。	○	外出できる体制を、できるだけ多く、支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーを守る配慮をしながら、支援している。	○	電話や手紙のやり取りは、できる限り行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時には、ゆっくりと過ごせる空間づくりに配慮している。	○	訪問時には、プライバシーに配慮していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容・弊害は十分に理解し、身体拘束はしていない。	○	今後も、身体拘束をしないケアを実施していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、チャイムを取り付け、対応している。外へ行かれても職員が見守り、支援している。	○	自由に外へ出ていただけるよう配慮し、見守ってきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者を常時見守り、動きやサインを把握し、安全を確認している。	○	利用者の行動を予見し、全職員が注意していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は、保管・管理している。状態に応じて、自分で持っている利用者には注意している。	○	物品の保管・管理は、職員間で徹底し、危険を防いでいきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故・緊急時等のマニュアルがある。職員が認識し、防止に取り組んでいる。	○	事故再発防止には、特に改善していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修や訓練を行い、実際に活かせるよう取り組んでいる。	○	マニュアルを作り、全職員に周知していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員・利用者が、一緒に火災訓練を定期的に行っている。 会議・日常業務の中でも、職員間で話し合っている。	○	地域の協力体制が得られるよう、話し合いを進めていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族との連携を取りながら、状況に応じ説明している。	○	リスクを予見し、家族と相談しながら、支援していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや表情観察を行い、状態の変化に注意している。	○	看護職と介護職が連携を取り、情報を共有し、細かい変化も見逃さないよう取り組んでいきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや、誤薬のないよう注意している。	○	カルテに薬の説明書を入れている。今後も、日常の状態を主治医に報告し、連携を図っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因を看護職と介護職で探り、個別に自然排便のための工夫をしている。	○	下剤や薬に頼らないで、水分補給や食物の工夫を行っていききたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	残在機能を引き出しながら、実施している。	○	協力歯科医が随時、往診に来られ、口腔ケアを行っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は介護記録に記入し、水分摂取をしていただくよう、工夫、注意している。管理栄養士と相談しながら、個々に応じた食事を実施している。	○	利用者の日常の様子を観察、意識し、個別支援をさらに重視していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルにより、職員が認識し、実施している。	○	常時、手洗い消毒薬を常備し、予防・徹底を図っていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買物に行き、新鮮な食材を使用している。衛生管理は、十分配慮している。	○	滅菌庫を設備していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに庭園があり、開放的である。夜間以外は鍵をかけず、いつでも出入りできる。	○	建物全体が木造作りで、家庭の延長の生活を可能としていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造作りで、家庭の延長の生活を可能とし、各室から外の採光を採り、景色を眺められるようになっている。	○	自然光を取り入れる工夫がされている。常に、季節の花を意識して生けるよう工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、くつろげる家具を置き、自由に過ごせるようにしている。	○	中庭や畳の間があり、自由に出入りできるので、今後も工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ってきてもらい、安心して過ごせる空間を作っている。	○	居室のドアを開ければ、共有スペースに出るのではなく、空間を設けており、今後も配慮していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	中庭があり、廊下全体に窓があるため、十分な自然換気ができる。温度調整は各々注意している。	○	空気清浄機を設置している。今後も、換気や温度調節に努めていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりを設置している。	○	建物の内外で滑りにくい材質を使用している。今後も、安全に環境づくりに努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には手作りの表札をかけたたり、トイレの表示をしている。	○	環境整備は混乱を招かないよう、その都度、補修している。今後も努めていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で談話ができるよう、椅子やテーブルを設置している。	○	建物の外周りを散歩できるようになっており、今後も外周りや空間を活用していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1. グループホームに、今後必要となってくるのが看護力である。看護部を組織化し、正看護師3名、准看護師3名で、グループホームミモザの入居者の健康管理と充実することを目指している。
2. 自社ホームページを利用して、入居者の個人用のページを開設している。これを利用することにより、家族が入居者の日常生活の様子をより充実して見ることを可能とした。